

真理子先生の

女性のミカタ

閉経後性器尿路症候群

院長
伊藤 真理子

●(しとうまりこ)1986年山形大学
医学部卒業。山大病院、篠田病院
を経て2005年6月に真理子レ
ディースクリニックを開業。日本産科
婦人科学会認定産婦人科専門医。



「閉経後性器尿路症候群」という病名をご存知ですか?—。

外陰や膣の委縮変化

閉経後性器尿路症候群は国際学会が5年前に提唱した新しい概念で、閉経後の女性ホルモン(エストロゲン)の減少に

よって生じる性器や尿路系の病気のことで。それまでは委縮性膣炎と呼んでいました。

具体的には外陰や膣に委縮変化がおこり、乾燥感、掻痒感といった症状や、膣分泌物の減少、性交痛や出血などが生じます。また排尿痛や頻尿、尿意切迫感、反復性の尿

路感染症などの排尿機能障害も頻発します。

中高年の半数が罹患!

症状は様々ですが、自覚症状がまったくなくという方もいます。ユツクリながら確実に進行する慢性進行性の病気で、様子を見ていても残念ながら良くはなりません。

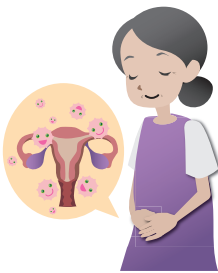
新しい病名・概念だけに一般的にはなじみが薄いでしょうが、中高年女性の約半数が罹患しているとも言われています。

発生メカニズムは?

エストロゲンは泌尿生殖器粘膜の発育や増殖、

分泌機能などに影響を及ぼします。閉経後にエストロゲンが減少すると血流が低下し、膣や外陰が乾燥したり分泌物が減ったりするのです。

膣粘膜のコラーゲンが減ると膣粘膜が薄くデリケートになり、膣の善玉菌も減少して自浄作用が低下してしまいます。



専門医にご相談を

外陰や膣の委縮変化に対する治療としてはエス

トロゲン膣錠の局所的投与が中心になりますが、エストロゲンを含む内服薬や経皮剤を全身投与するケースもあります。

女性ホルモン配合の軟膏やオイルなどは市販されていますが、デリケートな場所の治療だけに、専門医に相談なさることをお勧めします。

〈産婦人科〉

真理子レディースクリニック

☎023-632-0666 山形市小姓町 6-35

- 受付時間
【平日】午前/8時30分~12時
午後/14時~17時
【木曜】午前/8時30分~11時
【土曜】午前/8時~11時
- 休診日
日・祝祭日
木・土曜日日は午後休診となります。

